

石巻健育会病院

千葉 佑子(栄養科 / 調理師)

功 績 中東情勢の煽りを受け、石巻市内でも物価高騰、ビニール袋類の値上げやごみ袋等が手に入りにくくなっていた中、自身で対策を考え、スタッフへ周知。予備食の保管方法やゴミ袋の使用方法、配膳物品の管理方法などを見直した結果、消耗品使用量の削減を実現するとともに、資材不足による業務への影響を未然に防ぐことにつながった。自ら筋肉質な経営を意識し、率先してコスト削減を推進している功績。

推薦者氏名 栄養科 科長 鈴木淳史

推薦理由 現場で生じた課題に対し、誰かの指示や依頼を受ける前に、自ら改善の必要性を感じ取り迅速に行動へ移しています。手書きの周知文による業務改善や、嚥下調整食の見直しによる患者満足度向上、入院時食事療養等に係る特別食加算（嚥下調整食）の算定に向けた施設基準整備への貢献は、患者サービスの向上と筋肉質な経営の推進を実現した取り組みです。

上司からの指示を受ける前に、病院の方針を自分の中で整理・理解し、迅速に行動に移せる職員は、今後の病院運営にとって大変重要で、必要な事です。それを体現した千葉を理事長賞候補に推薦いたします。

内 容

千葉は今年で入職9年目になる調理師です。石巻市内では現在もごみ袋の供給制限が続いており、病院で使用するビニール袋やごみ袋についても購入制限が発生しています。そのような状況の中、千葉は今年度の病院方針の中心にもなっている「筋肉質な経営」を実践すべく、自ら対策を打ち出し、スピード感をもって対応しました。

パソコンでの資料作成に慣れているわけではない中、少しでも貢献したいとの思いから、自ら手書きで改善案をまとめた周知文を作成し、栄養科職員へ発信しました。予備食の保管方法やゴミ袋の使用方法、配膳物品の管理方法などを見直した結果、消耗品使用量の削減を実現するとともに、資材不足による業務への影響を未然に防ぐことにつながりました。

また、千葉は患者さんに食事を楽しんでもらいたいとの思いから、祝い膳や行事食の見直し、SNSを利用した病院食の魅力発信、嚥下調整食の改善にも継続して取り組んでいます。特に嚥下調整食については、彩りや見た目、盛付けを工夫し、嚥下機能が低下した患者さんにも食事を楽しんでもらえるよう改善を進めています。この取り組みは、入院時食事療養等に係る特別食加算（嚥下調整食）の算定に向けた施設基準整備にもつながっており、患者サービスの向上だけでなく、今後の病院経営への貢献も期待されます。

上司からの指示を受ける前に、病院の方針を自分の中で咀嚼して理解し、行動に移せる職員が増えることは栄養科にとって、そして今後の病院運営にとっても大変重要で、必要な事です。それを体現した千葉の行動は後に続く職員の手本となると考えます。